

# 令和7年度 事業報告書

令和7年4月1日～令和8年3月31日

## I 全体事業概要

令和7年度の梅雨入り梅雨明けも記録的に早くなり、夏は記録的な猛暑となりました。この温暖化傾向は今後も続くと見られ農業生産は「これまで通り」が通用しなくなっています。加えて、円安の影響で資材、燃油エネルギーの価格は上昇傾向が続き、農業経営の厳しさはさらに増してきています。令和6年から続く米価高騰の影響は本年度も続き一時的には米農家所得が改善されたが、農政の混迷もあり一転したコメ余り状況になり、大きな価格変動が心配されます。長期的な政策により安定した農業経営環境が望まれます。

農地利用集積事業では、令和7年度4月より農地の相対契約が廃止されたため、農地中間管理事業による機構保有面積は約375haを超え、水稻作付面積の4割以上となりました。新城市で策定された地域計画に基づき農地の集約を進めています。

農作業受委託事業では、農業機械が更新できない小規模農家や、堆肥散布希望農家からの受託業務を継続しました。農地を賃貸借に移行する農家が増加していることで、受託面積は減少傾向ですが、担い手と連携して事業を行っています。

担い手育成研修事業では、作手に夏秋トマトで農業次世代人材育成支援事業により4月に就農しました。

新たな担い手育成支援においては、担い手協議会の就農林相談会を始め、新農業人フェアや新城市単独のアグリチャレンジ相談会、現地説明会等を開催しました。雇用環境が好転している影響で、相談者が減少していますが、1名が市内のいちご農家での雇用を経て令和8年4月に就農することとなりました。

産直出荷農家としての期待を担う農業塾は、12期生4名の塾生が8月に1年間の課程を修了し、9月から新たに第13期生9名を受け入れて研修を実施しています。

種苗等生産事業では菌床ブロックと自然薯むかごの生産を行っていますが、生産資材や燃油電気料等の高騰が続く中、施設においても老朽化が進み、本年度は大きな補修と機材の補強をおこないました。また、県の補助金を活用して自然薯地域増殖圃を再整備しました。今後機能を維持できるよう計画的に施設整備を行い、コスト削減に努めつつ、収支均衡になるよう利用料の検証を行っています。

収益事業の菌床しいたけ栽培については、夏季の高温障害のリスクが高まる中、高温に対応可能な品種への切り換えを行っています。なお、しいたけ関連の資材高騰及び燃油高騰に対して、林野庁の補填を予定しています。

## II 事業内容

### 1. 農地利用集積円滑化事業

農地中間管理事業の改正を受けて、農地利用集積円滑化事業から農地中間管理事業へ移行したため、保有面積は減少した。今後も、満期等を迎える農地について、農地中間管理事業へ移行していく。

単位：ha

内 訳	地目	令和7年度保有面積	令和6年度保有面積
賃貸借	田	5.43	5.87
	畑	1.12	1.12
	その他	1.37	1.37
	小計	7.92	8.36
使用貸借	田	0.08	0.08
	畑	0.25	0.25
	その他	0	0
	小計	0.33	0.33
合 計		8.25	8.69

### 2. 農地中間管理機構業務受託事業

新規の農地や円滑化事業による満期を迎えた農地等について、農地中間管理事業への移行を行った。特に本年度は相対契約からの切り換えと塩瀬地区において圃場整備のために担い手への貸付による権利設定を行った。また、近年は地権者の相続案件が増えており、遠隔地等の市外在住も増加傾向にある。

単位：ha

内 訳	地目	令和7年度末設定面積 (機構保有面積)	令和6年度末設定面積 (機構保有面積)
賃貸借	田	222.29	221.72
	畑	5.58	4.88
	小計	227.87	226.60
使用貸借	田	137.79	117.08
	畑	9.74	6.59
	小計	147.53	123.67
合 計		375.40	350.27

### 3. 地域農業者の支援に関する事業

#### (1) 農作業受委託事業

耕作者の高齢化により、農地の貸借の増加と耕作放棄により農作業委託が減少傾向にある。

作業受託内容	令和7年度実績	令和6年度実績	公社	委託
耕起	3.2ha	1.7ha	○	○
代掻き	1.9ha	1.3ha	○	○
田植え	2.9ha	3.1ha	○	○
育苗	1,436 枚	1,387 枚		○
畝立て	0.3ha	0.5ha	○	
刈り取り	8.8ha	9.9ha	○	○
採種刈り取り	8.8ha	8.0ha	○	○
乾燥調整	1,815 俵	1,569 俵		○
堆肥散布	15.3ha	13.0ha	○	

(2) 担い手農家の育成・新規就農者受入れに関する事業

- ① 雇用環境が好転している影響で相談者は減少傾向にある。58組の相談を受けたが研修生として受け入れる人材はいなかった。

※ 参考データ

イベント名称	会場名	開催日	面談組数	備考
マイナビ就農 FEST	名古屋	R7. 8. 30	21	
愛知県農業大学校就農説明会	岡崎	R7. 11. 5	20	
新農業人フェア	東京	R7. 11. 23	6	
就農林相談会	新城	R7. 11. 30	6	
新城市アグリチャレンジ	新城	R7. 7. 6 R7. 11. 16	0 3	
現地説明会 (トマト・ホウレンソウ)	作手	R7. 6. 1 R7. 11. 16	0 1	現地 現地
現地説明会 (イチゴ)	新城	R7. 11. 1 R8. 1. 17	0 1	現地 現地
合 計			58	

- ② 農業次世代人材育成支援事業によるトマト就農専攻研修生を新たに1名が3月に終了し、令和7年4月から就農した。
- ③ 市内のいちご農家で雇用を経て1名が令和8年4月に就農することとなりました。
- ④ 農業塾では第12期生6名を受入れ、農業技術や知識のない受講生に対して農業経営への関心・意識の向上を図るとともに、農地の有効利用や直売所の販売量や品目の充実化を目指し、多品種の栽培品目にチャレンジし令和7年8月、1年間の農業実習を4名が修了した。同年9月からは、引き続き第13期生9名を受入れ、令和8年8月まで露地野菜を中心に栽培技術実習を実施中。

4. 農林産物の種苗等の生産・供給に関する事業

(1) 自然薯むかご受託栽培

愛知県園芸振興基金協会受託の自然薯原々種むかご栽培は現地指導会などにより栽培管理を行った。病虫害被害なく梅雨明け後の乾燥時期に灌水を増やしたが、むかごの肥大最盛期にあたる秋が短かった影響を受け、受託数量100,000粒を下回り、70,590粒となった。

(2) 自然薯一本種芋受注栽培

管内生産農家向け一本種芋栽培は、生産者の高齢化により受注本数が減少しているが、当初予定本数4,200本を上回り追加分を含め4,652本完納することができた。(一本芋規格30g~100g)

(3) 菌床しいたけ菌床ブロック受注生産

3品種196,608菌床の製造を行った。(4月~3月供給)

品 目	令和7年度実績	令和6年度実績
(1) 愛知県園芸振興基金協会むかご受託栽培	70,590 粒	102,130 粒
(2) 自然薯一本種芋受注栽培 (*30g~100g)	4,652 本	3,990 本
(3) 菌床しいたけ菌床ブロック受注生産	196,608 菌床	190,429 菌床

## 5. 都市農村交流促進事業

### (1) トウモロコシもぎ取り体験

夏休み期間中の作手地区の風物詩となり、体験需要も多いことから近隣遊休農地にて約6,000本を作付けした。リピーターも多く、高糖度のスイートコーンとして知名度が上がっているが、7月中旬の暴風雨により一部倒伏した。

体験は約500名となった。

## 6. 農林産物生産事業

### (1) 自然薯栽培事業

降雨が多く自然薯の種苗関連事業を優先したため7月定植となりました。

総収穫量176kg (前年なし)

### (2) しいたけ栽培事業

公社供給菌床ブロックの検証栽培として、前年より2,180菌床少ない36,318菌床(夏菌床14,238菌床、冬菌床22,080菌床)の栽培実証を行った。夏季の高温に比較的強いとされる品種(705-L、705-LL)を増やした。

総出荷量(パッケージセンター分のみ) 23,801kg (前年24,805kg)

## 7. その他公社の目的達成に必要な事業

### (1) 受け手のない農地の有効活用

ポップコーン種の栽培 3a

サツマイモの栽培 2a

### (2) 冬作キャベツの試作